

未来のために。

佐久長聖中学校 三年 山浦 カリール

始まって早速ですが、皆さんに質問です。皆さんは自分と違うと思ったことがありますか？

私は日本に住んでいて何度もあります。私は見ての通りハーフで純日本人ではありません。六歳の時、出生地のフイリピンを離れ、東京に引っ越しました。私は第一言語が英語だということもあり、日本語が分からず周りが話していることが理解できなかったもので、幼いながらも自分は周りと違うなと思っていました。小学生の頃も私がハーフだからという理由で仲間外れにされることもありました。こういう出来事もあり、私は日本を窮屈だと感じ始めました。

そして去年、エストニア研修についてあることを考え、感じ始めました。それは初めてのことは何でも抵抗感を抱いていても、慣れると考えや感覚は変化するということです。エストニアは親に背中を押されて行くことと決断しました。初めは嫌だと思っていた事前研修も現地での発表の練習やエストニアについて学ぶ事を繰り返すうちに、楽しいと思えるようになり、研修当日がすごく楽しみになっていました。エストニアではエストニア研修生である同い年の私のホストファミリーと過ごすことがほとんどでした。彼女は話をするのがとても好きで、英語も話せたので一緒にいるときは私が彼女の話を聞くことが多かったです。彼女の話で特に印象が深かったものはソビエト連邦時代に実際に彼女の父の身内に起こった出来事です。ある日突然ソ連軍が家にやってきて「五分で準備しろ」と言われ、軍に連れていかれたそう

です。このような話は本やインターネットで検索したら出てくるかも知れないけれど、やはり身内で起こったと知ると「実際にそのような事が起こっていた」現実味が増しました。その話を聞いているうちにエストニアの友人がかっこよく見えました。初めは正直嫌だった「自分がハーフ」ということと「自分はみんなと違って英語が話せる」ということもエストニア研修に行ったらラッキーだと思いました。もし、英語を話すことができなければ、このような面白いストーリーを聞くことができなかったと思うと自分の嫌だと思っていた、自分の嫌なところもラッキーな特技なのではないかと考えるようになった気がします。

そして今年度の四月ごろ、私はモンゴル研修について知りました。きっかけは親戚が過去にモンゴル研修に行ったと聞いたことです。はじめは草原のど真ん中で生活をするということに抵抗感があつたけれど、実際に行くことでも景色がきれいで私たちがホームステイをしたゲルでは新しい出会いもありました。ホームステイのゲルでは小学生一年生ぐらいの男の子三人と二歳児の女の子がいました。個人的にはこの子たちと一緒に、草原を散策したりモンゴルの人気スポーツであるバレーボールをして遊んだことが一番の思い出です。言語の壁はあつたけれど、意思疎通をして頑張りました。私がこのモンゴル研修で学んだことは人と関わることの大切さです。ゲルのホームステイで出会った子たちに限らず、通訳の方、日本人研修生と出会えて、人と関わるのが大切だということを学べました。

エストニア・モンゴル研修の大きな共通点は人と関わる大切さを学べるということだと思います。エストニア研修ではホストファミリーの話聞くことで、面白いストーリーを知ることができて、モンゴル

研修ではホームステイ先のゲルで子どもたちや現地の通訳者と出会うことができました。この研修でいろいろな人と出会い、世界は広く、いろんな人がいることも学べました。

最後にエストニア・モンゴル研修を企画してくださった佐久市、研修に行くように私の背中を押してくれた私の両親、そしてこの研修で出会った研修生、ホストファミリーの方々、ありがとうございました。もし、このスピーチを聞いている人の中で自分の未来がはっきりしていない学生、または大人の方がいたらぜひ一度だけでもいいので海外に行ってみませんか？